

ふるさと「阿南市」のすばらしい魅力を再発見!



漁ぎょ魚まつり(椿泊町)

発行/平成28年(2016年)7月1日 [696号]
 編集/阿南市企画部秘書広報課 〒774-8501 阿南市富岡町ノ町12番地3 ☎0884-22-1110
 印刷/米崎印刷株式会社 e-mail: hisho@city.anan.tokushima.jp



“海の生き物とふれあう” 鮮魚のつかみどりやタッチングプール

昨今の漁業を取り巻く環境は、水産物の消費低迷や水産資源の減少、長期間にわたる燃油の高騰、後継者不足などで厳しくなっている。この閉塞した状況を打開しようとする港まち椿泊町で、魚に親しむイベントが開催されている。その名も、「漁ぎょ魚まつり」。ハモやタチウオをはじめ魚種が豊富で水揚げ高が県下一の椿泊漁業協同組合が、新鮮な海の幸をPRしようと椿泊漁協の荷捌き場で開催し、毎年好評をほくし今回で5回目となった。

椿泊漁協代表理事組合長の久米順二(60歳)さんは、「魚文化の普及拡大には、生きた魚を直接見て食べて、魚の本当のおいしさを知ってもらうことが一番です」と話す。



地元わかめ入りのみそ汁が配られた



「魚っSUN's」による魚料理教室

極彩色の大漁旗が飾られた会場には、開始前から大勢の親子連れなどが詰めかけ、活魚の即売や海の生き物と触れ合える「鮮魚のつかみどり」、「タッチングプール」など多彩な催しを楽しんだ。「いけすコーナー」では、鯛やハマチ、イセエビ、骨切りされたハモ、とれたての生しらすが浜値で販売され、訪れた人々は漁協関係者から料理方法を聞いたりして、お目当ての魚などを買い求めた。

また、漁協女性部からは天然わかめのみそ汁が振る舞われ、来場者は風味豊かな海の幸に舌鼓を打った。その他、地元小学校や商店、セニアクラブなど地域が一体となったおもてなしに来場者は港まちの雰囲気を感じているようす。今年新たな試みとして、魚食普及活動に取り組んでいる椿地区青年漁業者グループ「魚っSUN's(うおっさんず)」による親子魚料理教室が開催され、参加者は慣れない手つきながら、熱心に魚の調理に取り組んだ。

多くの人々に魚とふれあう場を提供している「漁ぎょ魚まつり」。魚文化の普及拡大へつなげる突破口になればと願う。